

ブーンパデイト®

いもち病

初期害虫

チョウ目

箱粒剤

高密度は種対応

は種前から

移植時側条施用

WCS*使用可

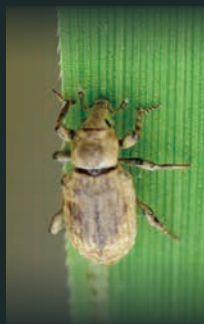
稲の病害抵抗性がアップ!

病害虫から 守る!

- ・は種前～移植当日まで箱施用可能。
- ・高密度は種対応、WCS*使用可。
- ・長い残効性。



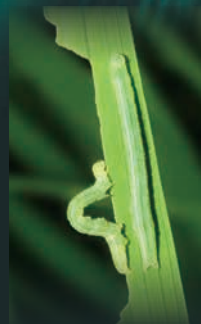
いもち病



イネミズゾウムシ



イネドロオイムシ



フタオビコヤガ



CYAZYPYR®/パデイト®は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。
ブーン®、はクミアイ化学工業(株)の登録商標

※WCS: 稲発酵粗飼料

ブーンパティート[®]

箱粒剤

有効成分 シアントラニプロロール…………… 0.75%
ジクロベンチアゾクス…………… 2.0%
人畜毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)

特長

いもち病に優れた効果と
長い残効性

初期害虫、チョウ目害虫に
優れた効果

稲に安全性が高く、
は種前～移植当日まで使用可能

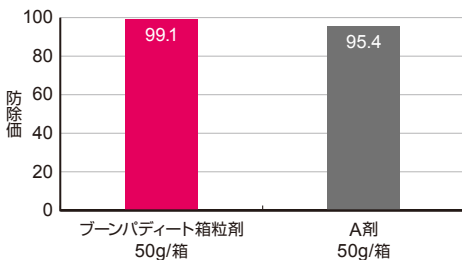
適用病害虫と使用方法

2024年7月現在

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロロールを含む農薬の総使用回数	ジクロベンチアゾクスを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	穂枯れ(ごま葉枯病菌)、コブノメイガ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	は種時(覆土前)～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)
	ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、イネヒメハモグリバエ、イナゴ類		移植当日				
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)、苗立枯細菌病		は種時(覆土前)		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。		
	いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、内穎褐変病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、イネツトムシ、コブノメイガ		は種前		育苗箱の上から均一に散布する。		
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)、コブノメイガ	高密度に は種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50～100g)	は種時(覆土前)～移植当日		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。		
	ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、イネヒメハモグリバエ、イナゴ類		移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)、苗立枯細菌病		は種時(覆土前)		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。		
			は種前		は種同時施薬機を用いて土中施用する。 側条施用		
稲	いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ	1kg/10a	は種時 移植時				

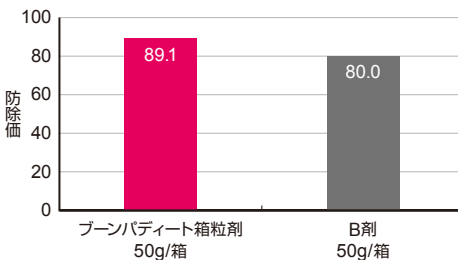
新農薬実用化試験成績

●いもち病(葉)に対する効果(は種時覆土前処理)



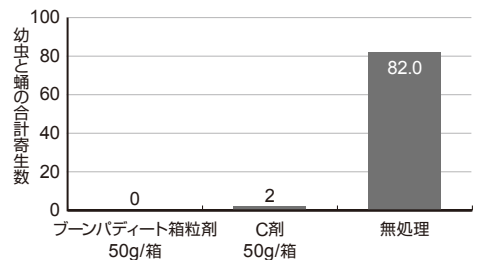
2016年 秋田県農業試験場
品 種：ナツミノリ
区制・面積：1区43.2㎡(1.8m×24m)、2連制
播 種：4月8日 移植：5月17日
処 理 日：4月8日
発 生 状 況：少発生(接種)
調 査 日：7月25日
調 査 方 法：各区100株の病斑数より防除値を算出した。

●ニカメイチュウに対する効果(移植当日処理)



2017年 兵庫県立農林水産技術総合センター
品 種：コシヒカリ
区制・面積：1区120㎡(6m×20m)、1区制
播 種：5月1日 移植：5月19日
処 理 日：5月19日
発 生 状 況：中発生(卵塊接種)
調 査 日：7月27日
調 査 方 法：各区3カ所について、1カ所100株の被害茎数を調査し被害率より防除値を算出した。

●イネミズゾウムシに対する効果(移植当日処理)



2016年 山形県農業総合研究センター
品 種：あきたこまち
区制・面積：1区45㎡(4.5m×10m)、2連制
播 種：4月22日 移植：5月16日
処 理 日：5月16日
発 生 状 況：中発生
調 査 日：7月7日
調 査 方 法：各区5株を土ごと掘り取り、根部を洗いながら幼虫および蛹数を調査した。

【使用上の注意事項】

- 使用量に合わせ秤量し、使い切ってください。
- 本剤を床土または覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用してください。また、本剤を処理した床土または覆土を放置しないでください。
- 所定量を育苗箱中の苗の上から均一に散布してください。なお、葉に付着した薬剤は軽く払い落とししてください。
- 苗を田植え機にのせる際、育苗箱の土壌表面が乾燥している場合は薬剤が落下するおそれがあるため、散布後に葉に付着した薬剤を払い落とし軽く灌水してください。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗または苗の生育が不良な場合には、被害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 側条施用をする場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用してください。
- 本田の整地が不均整な場合は被害を生じやすいため、代かきはいねいに行い、移植後に田面が露出しないように注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田及び隣接した水田ではいぐさを栽培しないでください。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ち

ないように処理を行ってください。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけてください。

- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 保管…密封し、直射日光を避け、冷涼・乾燥した場所に保管してください。

詳しい使い方、
登録内容とSDSは
こちらから。



本資料は2024年7月現在の
知見に基づいて制作しております。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記載しましょう。